

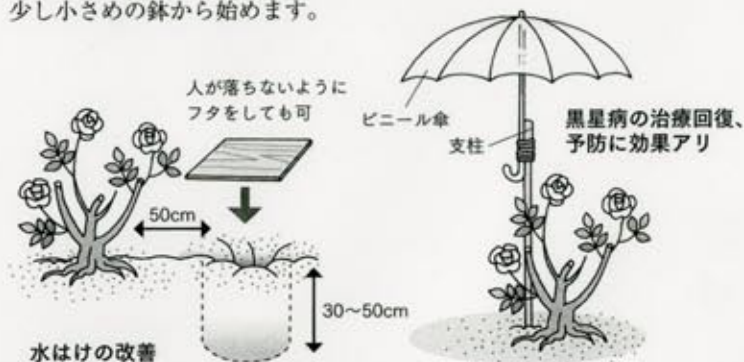
庭植えのバラの元気がない

肥料を適切に施しているなら、水分の調整がうまくいっていないのかもしれませんが。庭植えでは、水分の調整はなかなかできません。その場所だけでも水はけを良くする作業を行います。

弱った株から50cmほど離れたところに深さ30～50cmの穴を掘り、そのまま放置します。これだけでも、水はけはかなり改善されます。

また、庭の景観は台なしになりますが、梅雨期や秋雨期だけでも、大きなビニール傘をかけてやるのも効果的です。雨水は周りからもしみ込んでくるので、水分の調整はあまりできませんが、黒星病の治療回復、予防には効果があります。

その他では、鉢植えの場合と同様に、葉を茂らせるように手入れを続けます。元気が回復すれば、12～翌1月の休眠期にいったん掘り上げ、その場所の土壌改良を行い、特に水はけが良くなるよう少しうねを立てて植えこむか、別の場所へ移すのもよいでしょう。いったん鉢植えにして、もっと元気を出してから庭に戻すのもよいでしょう。その場合は、少し小さめの鉢から始めます。



春の花が少ない

四季咲きのバラ（ブッシュローズ）は、5月の一番花から初冬まで、うまくいけばひと枝で5回ぐらいは繰り返して咲きます。それぞれのシーズンごとに花色、花形、大きさなど、さまざまな花容を見せるのですが、中でも良花は5月の春一番花と、10月下旬の秋花です。このベストシーズンに際立った良花を咲かせるのが、“一枚上手のバラづくり”と言えるでしょう。

まず、春の一番花です。鉢植えバラなら冬の休眠期（12～翌2月）頃に、古い土をすべて取り除き、新しい土で植え替えます。庭植えバラは、これも休眠期から2月の剪定後、周りの土を深く耕し、堆肥や腐葉土なども加えてフカフカにして、新しい根の伸びるスペースをつくってやります。これで、春の一番花はある程度の良花が望めます。でも、“もう一枚上手の”極上花にはまだ届きません。

休眠期のバラは、しっかりと5月の一番花に向けて養分を蓄えています。この貯蔵養分は、どこで得たのでしょうか？ それは前年、春一番花以降、厳しい高温期を過ごし、初冬から休眠にかかるまでの約半年の生育により蓄えられるのです。

思い返してください。前年の一番花のあと、次々と新芽を伸ばし、新しいシュートも次々と出してくれたのでしょうか？ 夏の暑さの中、病気や虫害にも耐え、黒々とした葉を茂らせていたのでしょうか？ 秋花の良花もたくさん見せてくれたのでしょうか？ これらのことがあれば、あなたのバラはしっかりと養分を蓄え、やすやすと春一番、見事な花を咲かせてくれます。休眠期に与える寒肥や元肥などは、その後の生育には役立ちますが、春一番花への影響は、それほどありません。